

JCO臨界事故を忘れない、原子力事故をくりかえさせない

2014年9・30茨城集会



主催：集会実行委員会
実行委員長 田村武夫茨城大学名誉教授

JCO 臨界事故を忘れない、原子力事故を繰り返させない

2014年9・30茨城集会

9月27日、東海文化センター大会議室で、JCO 臨界事故を忘れない、原子力事故を繰り返させない 2014年9・30茨城集会が開催されました。記念講演は、安齋育郎氏（立命館大学特命教授・名誉教授、国際平和ミュージアム館長）の「どうなる日本の原発政策」でした。

安齋さんのお話と書籍のサインセールは大好評で、会場いっぱいの参加者は熱心に耳を傾けていました。

講演は、まず、「国境なき手品師団」名誉会員のアピールをかね、「どんなことにも起こる理由がある」として、スプーン曲げや3枚のカードマジックから入りました。

そして40年以上前にさかのぼる東海村との関係や、福島原発事故の現実を見据えよう、この国の原子力政策を変えるにはとすすめ、私たち主権者の憲法にもとづく、不断の取り組みの大切さを述べられました。

本集会には、東海村長始め県内25市町村長からメッセージが寄せられました。

日本原電東海発電所の廃止措置の状況と今後の予定について説明がありました…議会全員協議会

日本初の商業用原子炉として、昭和41年7月25日から平成10年3月31日まで営業運転をしてきた東海発電所は、経済的理由により、平成13年12月4日から解体工事を進めてきました。

次々とでる解体物の処理の見通しがたたないため、平成22年7月30日からトータルで8年間の解体工事期間延長の手続きを行っています。

これまでにタービン・発電機等機器の撤去は終わり、現在熱交換器等の撤去作業が行われています。

今回の説明の中心点は、低レベル放射性廃棄物（L3放射能レベルの極めて低いもの）の埋設計画についてでした。L3廃棄物の濃度上限値は、コバルト60（ 1×10^7 ベクレル/kg、半減期5.3年）、セシウム137（ 1×10^5 ベクレル/kg、半減期30.1年）、ストロンチウム90（ 1×10^4 ベクレル/kg、半減期28.8年）とのことです。埋設想定物量は、「金属撤去物」「コンクリートガラ」「コンクリートブロック」で、前期約5,000t、後期約10,200tで、容器に収納又は、梱包した状態で埋設施設まで運搬し、埋設・管理する計画とのことです。詳細は、別途ご報告させていただきます。

放射性廃棄物の処理・処分方法が未完成の中での国内初（商業用原子炉）の廃止措置です。皆さまのご意見をぜひお願い致します



東海発電所